

【平成19年2月期 決算説明会 報告骨子】

席上配布資料『平成19年2月期 決算説明会資料』とともにご覧ください。

1. 平成19年2月期の総括（資料P4）

- ・売上高 … 115億39百万円(前期比+1.5%)
- ・営業利益 … 6億15百万円(前期比+5.5%)
- ・経常利益 … 6億40百万円(前期比▲3.3%)

2. 平成19年2月期 連結損益計算書（資料P5）

- ・売上高 … 115億39百万円(前期比+1.5%)
→フロイント産業の減収(前期比▲6.5%)を米国子会社2社の増収(前期比+27.3%)で補う
 - ・売上総利益… 38億8百万円(前期比+7.5%)
→工場の稼働率・生産効率を高め、粗利益率は1.9ポイント上昇し、33.0%に
とくに、ベクター社は2005年後半から“設計から製造まで全工程の見直し”や利幅の大きい機械部品などを積極拡販
 - ・営業利益 … 6億15百万円(前期比+5.5%)
→近年の大型設備投資(2005年に浜松事業所では医薬品添加剤生産設備を増強、同年ベクター社でも工場を拡張)に伴う減価償却費・リース料の増加に加え、米国では社会保険料の企業負担が増加
 - ・経常利益 … 6億40百万円(前期比▲3.3%)
→前期に計上していた投資事業組合持分利益・為替差益の一過性利益が無くなる
 - ・税引前当期利益…6億35百万円(前期比+0.3%)
→事業活動への寄与が期待出来ない資産は順次処分(投資有価証券売却益を計上する一方、不動産売却損を計上)
 - ・当期純利益… 4億3百万円(前期比+31.1%)
→情報基盤強化税制や試験研究費の税額控除を受ける
- ⇒当期純利益の連単倍率は1.37倍(1997年にベクター社を買収して以来、初めて連結業績が単独業績を大幅に上回る経営成績)

3. 平成19年2月期 連結貸借対照表（資料P6）

(1) 設備投資の状況

- ・社内情報システムの全面更改に関わるソフトウェア勘定1億48百万円を計上
- ・個人住宅用不動産79百万円、投資有価証券22百万円を処分

(2) 各種指標

- ・総資産回転率 … 1.1回/年
- ・株主資本回転率 … 6.3%

4. 連結売上高（部門別売上構成）の推移（資料P7）

- ・機械部門 …71億34百万円(前期比▲2.4%)、売上構成比は61.8%
- ・化成品部門…44億5百万円(前期比+8.6%)、売上構成比は38.2%

5. セグメント別分析（資料P8）

＜資料のとおり、説明省略＞

6. 機械部門の受注高・期末受注残高の推移（資料P9）

（1）当社

期初受注残高… 15億72百万円

通期受注高 … 53億28百万円

期末受注残高… 28億69百万円

⇒過去最高の受注高、期末受注残高を記録

（2）ベクター社

期初受注残高… 747万ドル

通期受注高 … 2,753万ドル

期末受注残高… 1,163万ドル

⇒過去最高の受注高・売上高を記録し、期末受注残高は回復

7. 平成20年2月期の連結業績予想（資料P11）

・売上高 … 125億円(前期比+8.3%)

→当社で約10億円の増収予想

・営業利益 … 9億円(前期比+46.2%)

・経常利益 … 9億円(前期比+40.5%)

・当期純利益… 5億50百万円(前期比+36.2%)

8. 売上高・営業利益の推移（資料P12）

＜資料のとおり、説明省略＞

9. 設備投資額・研究開発費の推移（資料P13）

（1）設備投資額：3億6百万円を計画（平成20年2月期）

新製品に関わる研究開発、生産体制作りと社内情報システムの高度化

（2）研究開発費：3億19百万円を計画（同上）

10. セグメント別事業計画（資料P14）

＜資料のとおり、説明省略＞

11. 中期経営計画（資料P16）

平成20年2月期は中期経営計画の最終年度

（1）当初計数目標と業績予想

・連結売上高 …125億円（＝業績予想）

・連結営業利益 … 10億円（業績予想は9億円）

・連結当期純利益 … 6億円（業績予想は5億50百万円）

⇒業績予想は当初目標を下回るも、あらゆる施策を講じて当初目標に近づける

（2）3つの重点施策（資料P17）

＜資料のとおり、説明省略＞

以上